

## 次期総合計画における指標設定の基本的な考え方

行政評価制度は、行政の有効性・効率性の向上を目指していくとともに、県民に積極的に説明責任を果たし、県民とのパートナーシップを構築するための有効な手段であり、本県でも平成13年度から行政評価手法である「とちぎ政策マネジメントシステム」を導入している。

行政評価とは  
政策や事務事業等について、客観的な基準（指標）を用いて、有効性（政策目標の達成度合い）や効率性（行政活動に対する資金や人員などの投入度合い）等を評価すること。

### 1 指標の設定について

#### (1) 指標の設定目的

行政評価では取組に対する目標を設定し、その達成状況を分析・評価することで取組の改善につなげていくこととなるが、その際に目標の達成度を具体的かつ客観的に測定し、取組の改善に役立てるとともに、県民に対し県等の取組を分かりやすく説明する（説明責任）ための手段として、指標が活用される。

#### (2) 指標の主な要件

- ア 的確性（把握しようとしている目標の達成状況を正しく表わしていること。）
- イ 分かりやすさ（県民が、指標の意味を理解できること。）
- ウ 継続性（継続的に記録されている情報であり、時系列の比較が可能であること。）
- エ 利用可能性（出典の明らかなデータであること。また、データ測定のための費用が膨大とならないものであること。）

### 2 次期総合計画における指標設定の考え方

複雑・多様化する課題に対応していくためには、県民との協働による“とちぎづくり”を進めることが重要である。このため、県民に理解が得られ、一緒に行動するための「共通の目標」となる指標を設定する。具体的には以下のとおり。

- ア 今後5年間に重点的に取り組む「プロジェクト」毎に指標を設定する。
- イ 指標は、プロジェクトを構成する重点的取組の成果を表し、かつプロジェクト全体の目標を表すことができる、県民にわかりやすいアウトカム指標を設定する。
- ウ 全国の順位や平均値との比較など、相対評価ができる指標を積極的に活用する。

## 3 指標の目標値の設定について

- ア 指標の目標値は、プロジェクト等に設定された目標との整合を図り決定する。
- イ 目標値は、過去から現在までの状況を基に5年後を推計（当該指標にかかる近年のトレンドを基に5年後の状況を推計）し、その上にプロジェクトの展開等による状況の改善という積極的な意味を加えたものとする。

次期総合計画における指標及び目標値は、第2回部会で説明予定。

## (参考)

## 政策評価で一般的に用いられる指標

指標名	内容	事例
インプット指標 (投入指標)	・ 施策を執行するのに投入した行政資源の量(人、資金)	・ 資金 ・ 人員、人件費
アウトプット指標 (産出指標)	・ インプットによる直接の産出量(事業実施量)	・ 整備された道路延長 km
アウトカム指標 (成果指標)	・ アウトプットが県民生活にどのような変化、影響をもたらしたかという効果や成果 ・ 行政以外の様々な要因との関係あり	・ 渋滞解消箇所数 箇所 ・ までの移動時間が 分短縮